

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

経営者は俯瞰する目をたえず養っていく努力をする 岩田 彰一郎 (アスクル創業者)

1. 経営には「百の落とし穴」が待ち受けています。私自身、数多くの落とし穴に直面してきました。最も記憶に残るのは、17年に起きた埼玉県の主力物流センターで起きた火災でしょう。急成長していたときの出来事でした。絶好調のときこそ、想定していないリスクはひそんでいるものです。「良い時は悪い時、悪い時は良い時」はこうした経験を通じて得たものです。
2. 企業は上場すると競走馬になります。四半期ごとの成績表を渡されていくうちに、どうしても短期的な成績に目を奪われ、視野が狭くなり、やがて経営の方向を見失っていきます。ですが、企業はミッションの実現が本来の役割です。経営者は世の中を俯瞰する目をたえず養っていく努力が必要でしょう。
3. 一方、日本という国に目を向けると、多くの人が俯瞰どころか事実から目を背けています。没落する貴族のように、先進国というプライドを捨ててきていません。国際的な指標を冷静に見れば、取り返しがつかないところまで来ています。何事も「はじめに意思ありき」です。無から有を生むのは意思以外なものでもない。流されて見ているだけでは、組織も国も決して変わりません。

(参考:「日経ビジネス」2021年9月6日号)

経営者のための理念・哲学

人間は死ぬまで未完成

瀧澤 中 (作家・政治史研究家)

1. 人は惹きつけるもの、オーラというものは、「立派な人になりたい」と純粋な思いで努力し続ける人だから持てる。そういうひたむきさが自然とその人の雰囲気、オーラとなって周囲に伝わっていくんじゃないかと思います。
2. 人間は死ぬまで未完成。完成しないものだと思います。だからこそ、常に「自分はまだまだだ、立派になろう」と思って努力し続ける、そこに人間としての魅力が生まれる。自分は完成したと思った瞬間に、その人はダメになってしまうと思います。

(参考:「致知」:2021年11月号)

経営者のための社会学

「誰一人取り残さない」社会の実現へ

1. 高齢者を対象とした国際比較調査で、日本の高齢者の31.2%が「親しい友人がいない」という。これは他国(米、独、スウェーデン)と比較して2倍から3倍の数字だ。特に日本の高齢者男性では40.4%が「親しい友人がいない」と回答し、女性(23.0%)よりも深刻だ。
2. 高齢者が所有する情報通信機器を見るとデジタル化の普及が著しい。日本ではスマホやパソコンの所有の割合が40%台であるのに対し、他国では軒並み50~70%台だ。デジタル機器の普及状況が影響している可能性がある。9月1日に発足したデジタル庁は、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を掲げている。高齢者の孤独を癒すためにも、社会のデジタル化を役立てたい。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年9月25日号)

古典に学ぶ

武士道は商業者間では乏しかった

(解説) 武士道の神髄は正義、廉直、義侠、敢為、礼讓等の美風を加味したもので、一言にしてこれを武士道と唱えるけれども、その内容に至りてはなかなか複雑した道徳である。しかして余がはなはだ遺憾に思うのは、この日本の精華たる武士道が、古来もっぱら士人社会のみに行われて、殖産功利に身を委ねる商業者間に、その気風の乏しかった一事である。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)